



錦乃通信

Mamiya J.H.S School News

令和 7 年 7 月 1 日 (火)

さいたま市立馬宮中学校

令和 7 年度 第 4 号

学 校 教 育 目 標

未来を拓け ～自己の創造・生きる自信～

SINCE 1947

School Education Goal

Open your Future ～Self Creation ・ Confidence to live～

子どもと「スマホ」との関わり

校長 ^え衛 ^{とう}藤 ^{しん}伸 ^{すけ}介

盛夏の時期を迎え、早いもので今学期も残り 3 週間ほどで終わろうとしています。ここまで、保護者・地域の皆様に御理解と御協力をいただきながら、予定していた教育活動が滞りなく実施できておりますことにつきまして、改めて厚く御礼申し上げます。

本校ではこの 3 か月ほどの間に体育祭などの大きな行事とともに、特別活動の授業で様々な活動を実施してまいりました。その中の 1 つに、全校生徒を対象とした「スマホ・タブレット安全教室」というものがありました。私が印象に残っているのは、講師の方が、「この中にスマホを持っている人はどれくらいいますか。」という質問をしたとき、学年に関係なく大半の生徒が挙手をしていたということです。数年前までは特に下の学年のスマホ保持率は決して高くはなかったのですが、今は、中学生はスマホを持っているという前提で接していかなければならないと改めて実感したところです。

さて、スマホは私自身も毎日使用しておりますし、その便利さについては論を俟たないところではありますが、長年学校に勤務しているとスマホの負の側面を見聞きすることがあります。例えば SNS の他生徒とのやり取りで、誤解を生みトラブルに発展するケースがあります。入力された内容は話し言葉と違って真意が伝わらないことがあるのが厄介な点です。もう 1 つがスマホを使用することにより、本来子どもたちが優先すべき時間が奪われてしまうという点です。子どもたちの使用目的としては、SNS のやり取り、動画視聴、ゲームなど様々なようですが是非けじめを付けて使用させたいものです。中でも睡眠や家庭学習の時間中は、スマホを使わずにその行為に集中する必要があります。そのためにも物理的にスマホを遠ざけることが効果的です。効果が高いと思われる順にスマホを

- 1 保護者が預かる
- 2 別の部屋や廊下に置いておく
- 3 同じ部屋の中でも立ち歩かないと届かない場所に置いておく

ことをお勧めします。この他にも使用する時間の制限など、各御家庭でルールを決めていただき、子どもたちがスマホを使用することにより、いやな思いをすることのないよう見守っていききたいものです。

最後になりますが、次号の学校だよりは 2 学期が明けてからの発行となります。夏季休業中に事故や体調管理に十分気を付けながら様々な経験をし、始業式でまた一段とたくましくなった生徒の皆さんに会えることを今から楽しみにしています。